アカシュモクザメ

かなづちのような形の頭が特徴で、泳ぐときには頭でかじを取ると考えられています。単独か群れで行動し、魚やイカなどを食べます。

●最大4.3m●太平洋、インド洋、大西洋、日本

アカマンボウ

マグロのように体温を高くたもつための血管のしくみが発達していて、水温が低い深海でも活発に泳ぎまわり、えものをさがします。マンボウに似た平べったいからだが名前の由来です。

●2m●太平洋、インド洋、大西洋、日本●水深500mまで

アバ

夜行性で、昆虫やほかの魚を食べます。ほぼ全身に発電器官をもち、弱い電気を発生させてまわりのようすをさぐります。繁殖期には、植物を使って直径1mほどの巣をつくり、そこに卵を産みつけます。

●最大1.7m●アフリカ(ボルタ川など)

アフリカハイギョ

川や湖のまわりにある小さなぬまや湿地で、小魚や貝などを食べてくらしています。肺を使って、空気から酸素を取り入れることができ、水にふくまれる酸素が少なくても生きられます。

●最大1m●アフリカ(ザンベジ川など)

アミア

原始的な特徴を多く残し、「生きた化石」とよばれています。水量が減って水からじゅうぶんな酸素を取りこめないときは、うきぶくろで空気から酸素を取りこみます。さらに乾燥したときは、どろの中で夏眠することもできます。

●50cm●北アメリカ東部

アミメウナギ

流れのゆるやかな川や、湖などで見られ、甲かく類や昆虫を食べてくらしています。肺をもち、空気から酸素を取り入れることができるため、水にふくまれる酸素が少ない場所でも生きていけます。

●最大37cm●アフリカ(ウェメ川など)

アユモドキ

かくれ場所が多く、流れのある場所を好みます。夏に、川の増水などでできた水たまりで産卵し、わずか2日で卵がふ化します。仔魚はしばらく水たまりで成長し、そのあと川にもどっていきます。

●12cm●日本(琵琶湖と周辺の川、岡山県)

アルトランプロローグス・カルバス

タンガニーカ湖のシクリッド科のなかでも、とくに岩ばかりの場所に適応した種です。つき出した口で、岩のすきまにいる甲かく類などをとらえて食べます。

●最大12cm●アフリカ(タンガニーカ湖)

アローヘッドパファー

口元が長くのび、口は上を向いています。おもに水底のどろにひそみ、えものの小魚などが近づくのを待ちぶせします。内臓や皮ふに毒をもつ個体も見つかっています。

●最大13cm●東南アジア(メコン川など)

ウバザメ

最大で15mにもなる、世界で2番目に大きい魚です。外洋に単独か小さな群れでくらしていますが、100匹をこえる大きな群れをつくることもあります。大きな口を開けて泳ぎながら、ブラシのようなえらでプランクトンをこし取って食べます。

●最大15m●太平洋、インド洋、大西洋、日本

エバーグレーズピグミーサンフィッシュ

エバーグレーズなど、流れがゆるやかで水生植物が豊富な場所を好みます。繁殖期にはオスがからだをくねらせるダンスでメスをさそいます。

●2cm●北アメリカ南東部

エンゼルフィッシュ(スカラレエンゼル)

背びれとしりびれが長くて美しく、世界中で人気のある観賞魚の1つです。一度つがいになったオスとメスは、繁殖期のあいだはなれることなく、卵もいっしょに守ります。

●最大11cm●南アメリカ(アマゾン川など)

オオチョウザメ

最大で約8mにもなる、チョウザメ目でもっとも大きな種です。川や沿岸部でくらし、海にくらすものも繁殖期になると産卵のため川を上ります。卵は高級食材のキャビアとして有名で、卵をとるために乱獲されたため、大きく数を減らしています。

●2.2m●カスピ海、黒海など

カクレクマノミ

ハタゴイソギンチャクなどのイソギンチャクと共生し、小さな群れでくらしています。イソギンチャクの近くの岩に卵を産みつけ、オスが卵を守ります。

●10cm●日本(南西諸島)、太平洋西部、インド洋東部

カジカ

川の上流や中流の、水がきれいな場所の水底にすみます。石のうらに卵を産みつけ、ふ化するまでオスが守ります。

●17cm●日本(本州、四国、九州)

カタクチイワシ

浅い海で大きな群れをつくり、夏は冷たい海、冬はあたたかい海へと行き来する回遊をおこないます。大きく口を開けて泳ぎながら、えらでプランクトンをこし取って食べます。稚魚は「しらす」とよばれます。

●15cm●日本(北海道〜南日本)、太平洋北西部

カダヤシ

流れがおだやかな小川や池にくらしています。塩分に強く、汽水域でも見られます。卵ではなく、成長した稚魚を産む卵胎生です。

●4cm●北アメリカ東部〜南部

カッコウナマズ

湖の底のほうで、貝類などを食べてくらしています。マウスブルーダーのシクリッド科の魚に、自分の子どもを育てさせます。

●最大27cm●アフリカ(タンガニーカ湖)

ガリバルディ

浅い岩礁で見られる大型のスズメダイ科の魚で、ケルプのあいだなどにかくれてくらします。岩のすきまなどにメスが卵を産み、オスが守ります。

●最大30cm●太平洋北東部

カワヤツメ

どろの多い水底などにすみます。きゅうばんのような口でほかの魚に吸いつき、筋肉や血液を消化液でとかして食べます。

●60cm●日本(北海道、本州)、ユーラシア北部、北アメリカ北西部

カンディル

水底にひそみ、ほかの魚をおそって血を飲みます。えものをさがしていないときは、やわらかいどろにからだをうずめています。歯はりのような形で、えものの血管を切りさくのに使います。

●最大18cm●南アメリカ(アマゾン川など)

キッシンググラミー

おもに植物がゆたかな湖や川でくらし、藻類などを食べます。なわばりを守るときに、たがいの口を合わせておし合う行動をとる特徴から、観賞魚として人気です。

●最大30cm●東南アジア(メコン川など)

キノボリウオ

えらの中に空気から酸素を取りこむための器官をもち、水の外で活動できます。胸びれを使って、しめった地面をはいまわって移動します。

●13cm●東南アジア(メコン川など)、南アジアなど

キハダ

黄色いかま形の背びれとしりびれが特徴です。あたたかい外洋の水面近くで群れをつくります。もっとも漁獲量の多いマグロで、世界でつかまえられているマグロのうち60%をしめています。

●最大2m●太平洋、インド洋、大西洋、日本

キューバンガー(マンファリ)

アリゲーターガーよりからだは小さめで、キューバ島と、その近くにあるフベントゥド島の川や湖だけにすんでいます。はりのような歯をもち、ほかの魚を食べます。

●1m●中央アメリカ(キューバ島西部など)

キンメダイ

深い海の岩礁にくらし、魚や甲かく類などを食べます。少ない光を効率よく集めるための大きな眼があります。

●40cm●太平洋、インド洋、大西洋、日本●水深25〜1300mまで

グッピー

低地から高地まで、さまざまな場所にくらしていますが、とくに小川や植物が密集した湖などでよく見られます。敵から身を守るため、大きな群れをつくってくらしています。観賞魚として日本に持ちこまれ、外来種として問題になっています。

●3cm●南アメリカ(アマゾン川など)

グレイリング

冷たくて流れの速い川にすんでいます。岸辺に生えた植物のかげや岩かげにひそみ、昆虫や甲かく類を食べます。

●30cm●ヨーロッパ

コイ

どろが多く流れの少ない場所を好み、夕方や明け方に活発に活動します。大きな口で貝や小魚、水草などをのみこみます。かたいものは、のどの奥にある歯(咽頭歯)でかみくだきます。

●50cm●ヨーロッパ〜アジア、日本

コオリイワシ

中心が空洞になった軽い骨と、豊富にたくわえた軽い脂肪のおかげで、うきぶくろがなくても海底からはなれて泳ぎまわることができます。生息数が多く、ほかの魚やペンギン、アザラシなどの重要な食べ物の1つになっています。

●15cm●南極海

コノハイワシ

胸びれの上から緑色に光る液体を出します。光る液体で敵の気をそらして逃げるのだと考えられています。

●最大18cm●太平洋、インド洋、大西洋、日本●水深385〜5393m

シーラカンス

昼間は水深50〜200mほどの海底にある洞くつや岩のわれめにかくれていて、夜に水深600mほどの深さまでもぐって食べ物をさがします。速く泳ぐことができないので、海底をただよいながら、近くにきたえものをつかまえます。

●1.8m●アフリカ南東部

シギウナギ

小さな歯がたくさん生えた細長いくちばしのような口で、エビなどの触角をからめ取ってつかまえます。

●1.4m●太平洋、インド洋、大西洋、日本●水深100〜4337m

シシャモ

北海道南東部沿岸だけにくらす、日本の固有種です。2年ほど海ですごし、秋から冬にかけての夜に川を上り、産卵します。産卵後は海にもどり、ほとんどはすぐに死んでしまいますが、生き残ってつぎの年も産卵するものもいます。

●14cm●日本(北海道)

ジャイアントスネークヘッド

川やぬま地の、水深が深い場所にすみます。細長いつつのような形のからだと、平らな頭が特徴です。最大で1.3mになる、タイワンドジョウ科のなかでは最大級の種です。現地では重要な食用魚とされています。

●60cm●東南アジア(メコン川など)

シャチブリ

深海のすな地にくらしています。からだは半透明でやわらかく、ゼラチン質でおおわれています。ゼラチン質はまわりの海水と同じ重さの水分を多くふくむので、深海でもからだをうかせやすくなります。

●1m●太平洋北西部〜西部、日本●水深140〜600m

シャムタイガー

大きな川や湿地にすみます。トラ(タイガー)のような、黄色いからだに黒いしまもようが特徴です。観賞魚として人気がありますが、乱獲によってタイでは数が減り、きびしく保護されています。

●最大48cm●東南アジア(メコン川など)

ジョルダンヒレナガチョウチンアンコウ

つりざおのような器官が光らないかわりに、からだ中から生えた糸のような突起で水の流れや振動を感じ取り、えものをさがすと考えられています。

●最大20cm●赤道付近をのぞく太平洋・インド洋・大西洋●水深100〜1510m

スズキ

小魚や甲かく類をおそう、大型の肉食魚です。成魚は沖合で冬をすごし、夏に水温が上がると、内湾や河口に移動します。稚魚はおもに河口でくらしています。食用のほか、「シーバス(海のバス)」とよばれ、つりの対象魚としても人気があります。

●60cm●日本(北海道〜南日本)、太平洋北西部

スモールマウスバッファローサッカー

ユーラシア大陸のコイにすがたや生態がよく似ています。川や湖でくらし、水生植物が多い場所を好みます。成魚は、背中がウシのなかまのバッファローのようにもり上がることが名前の由来です。

●60cm●北アメリカ南部

ゼブラダニオ

平らな場所にある水田や小川のような、流れのゆるやかな場所でくらしています。からだに5本のしまもようがあり、観賞魚として人気です。

●最大5cm●南アジアなど

ターポン

河口近くの海でくらす大型の魚で、イワシなどの小魚を食べます。淡水に入ることもあります。うきぶくろを使って空気から酸素を取りこめるので、酸素が少ない場所でも生きていけます。つりの対象魚として人気です。

●最大2.5m●カリブ海、大西洋西部

タイセイヨウクロマグロ

大西洋で見られる、クロマグロに近い種のマグロです。食べ物が豊富な場所や、産卵場所を求めて、年に何回も北アメリカとヨーロッパのあいだを行き来します。

●最大4.5m●大西洋

タイワンキンギョ

川や池などの水の流れがゆるやかな所を好み、水生植物のあいだなどにすんでいます。オスは、口に空気をふくみ、あわを出して産卵のための巣をつくります。メスが産んだ卵を、オスが1つずつあわの中に入れ、ふ化するまで守ります。

●6cm●東アジア〜東南アジア、日本(南西諸島)

チンアナゴ

潮の流れがよいサンゴ礁のすな地に大きな群れでくらしています。頭を水が流れてくる方向に向けて、流されてきたプランクトンなどを食べます。

●40cm●日本(南日本〜南西諸島、小笠原諸島)、太平洋、インド洋

ディスカス

ふだんは群れでくらし、繁殖期にはそれぞれのつがいがなわばりをつくって産卵します。卵がふ化してからの数日間、仔魚は親の皮ふから出るねん液を食べて育ちます。

●最大17cm●南アメリカ(アマゾン川など)

デビルズホールパプフィッシュ

北アメリカのデビルズホールという洞くつの中の池にだけくらすカダヤシ目の魚です。洞くつの天井が開いていて光がとどくので、眼は退化していません。約$20m^2$の池に数十匹がくらし、世界一生息域がせまい魚といわれています。

デンキウナギ

体内の発電器官で発生させた電気を使い、小魚や小型のほ乳類を感電させて食べます。ふつうは単独でえものをおそいますが、一部の地域には集団で狩りをおこなうデンキウナギがいます。

●最大2.5m●南アメリカ(エセキボ川)

デンキナマズ

流れのゆるやかな場所にすんでいて、おもに夜に活動します。からだに発電器官をもち、小魚を感電させて食べたり、敵から身を守ったりするために、電気を発生させます。

●最大1.2m●アフリカ(ナイル川など)

ドクターフィッシュ

口のすぐ後ろにきゅうばんがあります。このきゅうばんで岩にはりつき、口で藻類をはがして食べたり、水底の有機物を食べたりします。

●最大14cm●ヨーロッパ〜西アジア

トラフグ

すな地に群れでくらし、魚やエビ、カニなどを食べます。内臓に毒をもっています。日本では高級食材としてさかんに養殖されています。

●80cm●日本(北海道〜南日本)、太平洋北西部

トランスルーセントグラスキャット

水がにごった川にすみます。からだ全体が透明で、外側から骨まで見ることができます。最大100匹にもなる大きな群れをつくり、小魚や昆虫などを食べています。

●最大18cm●東南アジア(メコン川など)

ドンコ

川や湖、池などの、流れがよどんだ所を好みます。オスは石の下などに巣あなをつくり、メスが産みつけた卵を、ふ化するまで守ります。

●18cm●日本(本州、九州)、東アジア

ナマズ

大きな川の中流から下流や、湖などにくらしています。昼間は水生植物や岩のかげで休み、夜になると、ひげで水底をさぐり、甲かく類や小魚などのえものをさがします。

●50cm●日本(北海道、本州、四国、九州)、東アジア

ナンヨウマンタ

沿岸から近いサンゴ礁にくらしています。水面近くを泳ぎまわり、大きな群れをつくることもあります。正面に向いた口を大きく広げてプランクトンを吸いこみ、えらでこし取って食べます。

●最大4m(体盤幅)●日本(高知県、南西諸島)、太平洋西部、インド洋、大西洋東部

ニジマス

上流から下流まで広いはんいを泳ぎまわり、水生昆虫や小魚などの食べ物をさがします。淡水で一生をすごす陸封型と、海に下る降海型がいます。つりや食用で人気が高く、日本をはじめとする世界中に移入されています。

●60cm●ユーラシア北東部〜北アメリカ西部

ニタリ

外洋の水面近くにくらし、沿岸にもあらわれます。長い尾びれをえものの魚やイカにたたきつけ、気絶させたり、弱らせたりしてから食べます。

●最大4m●太平洋、インド洋、日本

ニホンウナギ

仔魚は深海で生まれ、数千kmの距離を泳いできて川を上ります。川で5〜10年すごすと海に下り、産卵のため深海にもどります。成魚は、昼間は石のあいだやどろの中にかくれてすごし、夜に小魚などを食べます。

●60cm●日本、東アジア

ヌタウナギ

無顎類とよばれる、とても原始的な魚類です。クジラや魚の死がいに群がり、やすりのような舌で肉をけずり取って食べます。敵におそわれると、からだの表面から大量のねん液をふき出して身を守ります。

●60cm●太平洋北西部、日本●水深10〜270m

ネオンテトラ

光を反射してかがやく青いからだに、赤いもようが入っています。大きな川にそそぐ小川にくらし、小さな昆虫や甲かく類、植物などさまざまなものを食べます。さまざまな色の品種がつくられています。

●最大3cm●南アメリカ(ソリモンエス川の支流)

ノーザンパイク

湖などにくらし、水生植物にかくれて、えものをまちぶせしておそいかかります。小魚やヘビ、ネズミなど、なんでも食べる大型の肉食魚で、とも食いもします。水温の変化に強く、ほかの魚があまりいない寒い地域でも見られます。

●55cm●北アメリカ、ユーラシア

ハクレン

大きな川や湖にくらし、繁殖期になると川を上って上流で産卵します。卵は水にしずまず、流されながらふ化します。そのため、ふ化する前に海まで流れてしまわないように、十分な長さのある川を必要とします。

●1m●東アジア東部

バショウカジキ

外洋の水面近くで群れをつくります。大きな背びれを折りたたんですばやく魚やイカを追いかけ、追いつくと背びれを広げて急ブレーキをかけます。

●最大3m●太平洋、インド洋、日本

ハダカイワシ

昼間は深海にいて、夜に表層に上がってプランクトンを食べます。ハダカイワシのなかまは種類も数も多く、深海や外洋にくらす魚の重要な食べ物になっています。

●10cm●太平洋北西部〜西部、インド洋、大西洋、日本●水深100〜2005m

バラムンディ

さまざまな塩分のこさにたえられるので、川や湖、海など、いろいろな場所にくらしています。川にすむものは、産卵のために河口まで下ります。オーストラリアではもっとも重要な食用魚の1つです。

●1.5m●オーストラリア北部、東南アジア、南アジア

ハンプヘッドシクリッド

水深30〜50mほどの、深くて岩の多い所にすみ、貝や小魚を食べます。口の中で卵や稚魚を育てる、マウスブルーダーです。子育てのために浅い所に移動するほかの魚とちがい、敵の少ない深い所にとどまって子育てをします。

●最大33cm●アフリカ(タンガニーカ湖)

ピクタスキャット

金属のようなかがやきがある、美しいナマズです。ひげを使ってえものをさがし、小魚などを食べます。

●最大11cm●南アメリカ(アマゾン川など)

ピラニア・ナッテリー

おくびょうな性質のため、単独ではなく群れをつくって魚や昆虫などを食べます。人間のような大きい動物を積極的におそうことはあまり多くありません。

●最大63cm●南アメリカ(アマゾン川など)

ピラルクー

川の流れがゆるやかな所や、湖で見られます。うきぶくろを肺のように使うことで、水だけでなく空気からも酸素を取り入れて呼吸します。雨季になって川の水があふれると水につかった森まで食べ物をさがしに行きます。

●2m●南アメリカ(アマゾン川など)

フクロウナギ

あごがとても大きく、風船のようにふくらむ口がおりたたまれています。口を大きく開けて、エビなどのえものを海水ごと丸のみにします。

●80cm●太平洋、インド洋、大西洋、日本●水深500〜7625m

ブラインドケーブカラシン

メキシコの洞くつにすむカラシン目の魚です。退化した眼のかわりに、側線で水の流れを感じ取る能力と、嗅覚がよく発達しています。また、地上の川にくらす群れもいて、川にすむものは眼が退化せずに育ちます。

ブルーギル

水生植物が多く、流れのゆるやかな場所を好みます。オオクチバスと同じようにつりの対象魚として人気が高く、日本をはじめ各国で放流され、外来種として問題になっています。

●19cm●北アメリカ

ペーシュカショーロ

するどいきばを使って、小魚をおそって食べます。「ペーシュ」は「魚」、「カショーロ」は「イヌ」という意味で、下あごにある2本の長いきばから名づけられました。

●最大1.2m●南アメリカ(アマゾン川など)

ベタ

オスの成魚は性質があらく、なわばりを守るために、ほかのオスとはげしく戦います。繁殖期には、オスが口から出したあわで産卵のための巣をつくります。観賞用に品種改良されたものは、とても色あざやかでひれも美しい形をしています。

●最大7cm●東南アジア(メコン川)

ペヘレイ

「ペヘレイ」とは、スペイン語で「王様の魚」という意味です。南アメリカでは、食用魚としても、つりの対象魚としても高い人気があります。淡水や汽水の川にくらし、おもにプランクトンを食べます。

●最大50cm●南アメリカ(ラプラタ川など)

ヘラチョウザメ

流れがゆるやかで、深い川や湖にくらしています。大きな口で水ごとプランクトンを吸いこみ、えらでこし取って食べます。若魚には歯がありますが、成長とともになくなります。

●約1.2m●北アメリカ中央部〜南部

ボウズハゲギス

海氷(海にうかぶ氷)の下やすきまを活発に泳ぎまわり、オキアミやコオリイワシなどを食べます。氷山のすきまに産卵するすがたが観察されています。

●最大28cm●南極海

ホッキョクイワナ

淡水魚のなかではもっとも北まで分布しています。降海型と陸封型がおり、降海型は生まれてから10年ほど淡水でくらしたあと、海に下ります。秋から冬にかけて産卵のために川を上り、産卵が終わるまではなにも食べません。

●40cm●ユーラシア北部、北アメリカ北部、北極海

ホホジロザメ

群れはつくらず、単独で外洋にくらしています。イカや魚のほかに、オットセイやアシカなどの海生ほ乳類も食べます。胎生のサメで、仔魚は母親のおなかの中でミルクをもらうなどして大きくなります。

●最大6m●太平洋、インド洋、大西洋、日本

ボラ

浅い海のすな地に群れでくらし、河口や川の下流でも見られます。海底の藻類や小動物、どろの中の有機物などを、どろといっしょに口に入れて食べます。よく水面から大きくとびはねますが、理由はまだよくわかっていません。

●60cm●日本全域、太平洋、大西洋、インド洋

マアジ

水面よりも少し下から海底にかけての深さに群れでくらしています。ずっと沿岸でくらすものと、沖合を回遊するものがいて、それぞれからだの色からキアジ、クロアジとよばれます。

●30cm●日本(北海道〜南西諸島)、太平洋北西部

マイワシ

カタクチイワシと同じように、大きな群れで海を回遊し、えらでプランクトンをこし取って食べます。食用のほか、畜産用の飼料(フィッシュミール)としても利用されます。

●20cm●日本(北海道〜南日本)、太平洋北西部

マサバ

沿岸に群れでくらしています。昼間は海底付近にいて、夜になると水面近くに上がってきてプランクトンや小魚などを食べます。季節ごとに回遊していて、春から夏は北の海、冬は南の海ですごします。

●40cm●日本(北海道〜南日本)、太平洋

マラウイピーコック

稚魚を敵から守るために、メスが口の中で子育てをする「マウスブルーダー」というタイプのシクリッド科の魚の1つです。洞くつのようなあなにかくれる習性があります。すなにもぐっている昆虫などを食べます。

●最大11cm●アフリカ(マラウイ湖)

マラケリー

稚魚は甲かく類や昆虫の幼虫、成魚は小魚を食べます。マダガスカル島の固有種で、低い水温にもたえることができ、標高1500mの高地にある川でも発見されています。

●最大28cm●アフリカ(マダガスカル島)

マンボウ

おもに単独で行動します。稚魚や若魚は甲かく類やプランクトンを食べ、大型の成魚はクラゲを好みます。昼間は食べ物をさがして深海にもぐり、しばらくすると深海で冷えたからだをあたためるために、海面で横になってひなたぼっこをします。

●最大2.7m●太平洋、日本

メカジキ

外洋の水面近くから深海に、単独でくらしています。剣のような上あごで、魚やイカをたたいたりつき刺したりしてしとめ、丸のみにします。

●最大4m●太平洋、インド洋、大西洋、日本

メガマウスザメ

1976年に初めて発見されたサメです。プランクトンをえらでこし取って食べます。昼間は深海にいて、夜になるとプランクトンを追いかけて海面に上がってくると考えられています。

●最大7m●太平洋、インド洋東部、大西洋、日本

メバチ

外洋の、ほかのマグロよりも深い所を泳ぎまわり、魚やイカなどを食べます。昼間は水深500mほどまでもぐり、夜に水面近くまで上がってきます。

●最大2.5m●太平洋、インド洋、大西洋、日本

ユウレイオニアンコウ

クラゲのように半透明なからだの、チョウチンアンコウのなかまです。オスはメスとはぐれないようにメスのからだに食らいつきます。複数のオスがメスのからだにくっついていることもあります。

●20cm●太平洋、インド洋、大西洋●水深2250mまで

ヨゴレ

外洋の水面近くにくらしています。群れはつくらず単独で行動しますが、よくコバンザメやブリモドキがいっしょに泳いでいます。攻撃的な性質で、魚やイカ、ウミガメをおそって食べるほか、人もおそいます。

●最大4m●太平洋、大西洋、インド洋、日本

ラブカ

とげのような歯や、6列あるえらあななど、大昔のサメに近い特徴を多く残しています。深海の海底でくらし、魚やイカなどを食べます。おなかの中で、3年以上仔魚を育てると考えられています。

●2m●太平洋、大西洋、日本●水深1570mまで

リーフィーシードラゴン

海藻の多い岩礁やすな地にくらし、水中をただようように移動します。海藻にそっくりなからだは、敵から身を守るだけでなく、オキアミなどのえものに気づかれずに近づくためにも役に立ちます。

●最大35cm●オーストラリア南部

リーフフィッシュ

かわいた葉のような色ともようで、下あごの先に葉柄(葉のつけ根)のようなひげがあります。水面にうかぶ落ち葉に擬態し、小魚などが近づいてくると、すばやく動いてとらえます。

●最大9cm●南アメリカ(アマゾン川など)

リュウグウノツカイ

最大8mにもなり、もっともからだが長い硬骨魚類といわれている大きな魚ですが、おもに小さなオキアミなどを食べます。

●最大8m●太平洋、インド洋、大西洋、日本●水深20〜1000m

レイクトラウト

冷たい湖などにくらし、小魚を食べます。流れの少ない場所を好み、川ではあまり見られず、海に下ることもありません。

●50cm●北アメリカ北西部

レインボーダーター

ダーターのなかまは北アメリカだけにすむ小魚で、観賞魚として人気があります。水がきれいで流れのある小川などにすみ、水生昆虫などを食べます。おくびょうな性質なので、ふだんは岩のすきまなどにかくれています。

●5cm●北アメリカ

レッドテールノト

乾季に干上がるぬまや小川でくらし、昆虫などを食べます。卵は雨季の終わりにどろの中に産みます。乾季になると、水が干上がって親は死にますが、卵は乾燥にたえて雨季まで生き残ります。

●最大5cm●アフリカ(ウングジャ島など)

レッドフィンボティア

どろの多い大きな川を好み、乾季に川の水位が下がると、より水の多い上流に移動します。美しい色で、観賞魚として人気です。

●20cm●東南アジア(メコン川など)

ロウニンアジ

成魚は、岩礁やサンゴ礁に単独でくらしています。ほかの魚をおそう大型の肉食魚で、サメやアザラシの近くを泳ぎ、えものを横取りします。

●1.2m●日本(北日本〜南西諸島、小笠原諸島)、太平洋、インド洋

NOT FOR SALE ©KADOKAWA

写真提供：シーピックスジャパン株式会社、小枝圭太（メバチ）、アフロ、アマナイメージズ、PIXTA、宮正樹（コノハイワシ）、関慎太郎（スモールマウスバッファローサッカー）、フォトライブラリー、アクア・トトぎふ（ゴライアスタイガーフィッシュ）